

## はじめに

近年、社会的・職業的自立に向け必要な能力や態度を育てるキャリア教育の更なる推進・充実がより重要となってきた。本報告書は、これに資するべく、キャリア教育に関する調査データを二次分析し、その知見を取りまとめたものである。

ここ数年、国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センターが公刊するキャリア教育支援資料については、平成 24 年度実施の「キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査」の結果に基づいて、テーマ選定や資料作成がなされてきている。このように、キャリア教育の更なる推進・充実を図る上で、データに基づきつつ我が国の実態を把握し、必要な支援を行っていくことが、今後ますます重要となっていくものと考えられる。

その一方で、国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センターが収集してきた、キャリア教育に関する調査データが持つ潜在的な有効性は、まだまだ活用の余地を残している。「キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査」については、速報的な内容を取りまとめた『第一次報告書』、テーマを設定し、分析の知見を取りまとめた『第二次報告書』が刊行されてきており、刊行時点で必要と考えられた内容が読者に届けられている。

しかし、「総合的実態調査」が有する計 14 ものデータセットには、異なるテーマ設定や既存のテーマの更なる分析を行いうる余地がまだまだ残されている。上で述べたように、データに基づきつつ我が国の実態を把握し、キャリア教育の更なる推進・充実に資する支援を行っていくという観点からは、既存の調査データの中にもいまだ宝が眠っているのに等しいのである。

これらの認識の下、本報告書の作成事業が企画・実施された。文部科学省の協力の下、文部科学省において保有されている「高等学校普通科におけるキャリア教育の実践と生徒の変容の相関関係に関する調査研究」のデータも併せて分析に用いた。当該調査のデータが利用可能となったことで、テーマ設定や分析の自由度も増している。

本報告書は、タイトルにもあるように、既存のデータを利活用して知見を掘り起こそうという、新たな試みである。本報告書にて取り扱われているテーマは、その重要性が既刊の支援資料等にて指摘されているものも含まれているが、本報告書の分析結果を通じて新たな側面に光が当たり、各教育委員会における施策の充実に、また施策を通して各学校にて実施されるキャリア教育の充実に資することを強く願うところである。

末筆になったが、「キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査」実施に関わった関係者、並びに、文部科学省初等中等教育局児童生徒課の協力に、感謝申し上げます。

平成 28 年 3 月

国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター  
センター長 頼本 維樹